

令和3年度 第3回和光市自立支援協議会 会議録（要録）

- 1 日時 令和3年3月24日（水） 14時00分～14時50分  
 2 場所 和光市役所 3階 全員協議会室  
 3 出席者 11名

	所属団体等	氏名
会長	十文字学園女子大学教育担当	佐藤 陽
委員	障害者支援施設すわ緑風園	漆原 新吾
委員	社会福祉法人 和光福祉会	池亀 優子
委員	特定非営利活動法人 ポコ・ア・ポコ	山本 恵子
委員	医療法人寿鶴会 菅野病院	望月 博文
委員	埼玉県立和光南特別支援学校	高萩 直子
委員	和光市身体障害者福祉会	下川 初江
委員	和光市社会福祉協議会 (和光市南地域生活支援センター)	野川 希代子
委員	公募による市民	岩佐 健次
委員	公募による市民	高橋 香苗
委員	その他市長が必要と認める者	高田 奈歩

- 4 欠席者 6名

	所属団体等	氏名
副会長	和光市心身障害児・者を守る会	深野 正美
委員	社会福祉法人章佑会 (和光市中央地域生活支援センター)	押領司 賢二
委員	埼玉県朝霞保健所	田島 貴子
委員	和光市教育支援センター	圖子田 俊寛
委員	朝霞公共職業安定所	齊藤 篤志
委員	特定非営利活動法人 耀の会	関 正視

(事務局) 社会援護課 梅津課長 濱口統括主査 鈴木主査 森田主任

- 5 傍聴者 1名

## 1 第六次障害者計画・第6期障害福祉計画策定について

### 資料1 パブリック・コメントの意見の概要と市の見解

#### 事務局説明

- 【佐藤会長】事務局からの説明にもあったように、他部署との横断的な内容も入ってきている。これが今の社会福祉の新たな在り方で、地域共生社会の実現に向けての施策運営である重層的支援体制整備事業、障害、高齢、子ども、生活困窮、それらを横断的にする事業が、この4月1日から施行され、本市も地域福祉関係課所で進められると思うが、どのように自治体として整理していくのかということが、全市的な課題になっていく。他部署との連携というものもこれから重要になっていくと思う。
- 【山本委員】2番の説明にあった関係部署に伝えていくとあるが、意見の概要について、市ではもっと詳しい内容がわかっているのか。この文章をどこに伝えるのか。
- 【濱口統括】意見の概要については、原則、いただいたものをそのまま記載している。詳細な部分については、今の時点で完全に把握しているわけではないが、いただいた意見を基に、関係部署と連携を取りながら、確認し、検討していく。
- 【山本委員】24番も関係部署に情報提供していくとあるが、移動支援のニーズが高まっているので、社会福祉協議会と包括支援センターがバックアップして考えていただきたい。私はこの中が関係部署だと思うが、この他の関係部署はどこになるのか。
- 【濱口統括】移動支援の制度だけではなく、住民主体の助け合い、社会福祉協議会や包括支援センターのバックアップをお願いしたいという意見が多かったので、関係部署である地域包括ケア課等、保健福祉部内で連携を取りながら進めていく。もし、他部署へ派生するようなことがあれば、その都度関係部署に繋ぎながら調整していく。
- 【山本委員】23番の生活サポートの送迎は、通っている学校や通所の施設に送迎するのがサポートの送迎と書いてある。例外の部分のみ認めるということを前は聞いており、できるのはショートステイに行くときの送迎はよいが、学校や日中の施設の送迎は、例外のみ認めるとのことだと思っていたが、これは大丈夫になったのか。
- 【濱口統括】生活サポートの送迎サービスについては、利用者の自宅と特別支援学校、障害福祉サービス事業所との一時的な送り迎えをするものである。あくまで一時的な送り迎えで定期的な支援ではない。
- 【山本委員】ショートステイも大丈夫か。
- 【濱口統括】短期入所事業所への送迎は、生活サポートではなく移動支援の社会生活

上必要不可欠な外出として対応することになる。

- 【 山本委員 】 ショートステイ先の施設に生活サポートで送るのは、認められていないのか。
- 【 濱口統括 】 基本的な制度の棲み分けとしては、移動支援で対応することになる。原則、生活サポートの制度は、法定給付である障害福祉サービスや地域生活支援事業である移動支援が利用できない方を対象とする制度である。
- 【 佐藤会長 】 実務で関わっていると応用的な視点で見られる点があると思うが、質問に対するところでは、そのあたりを整理して回答を用意しているということであると思う。
- 【 山本委員 】 今回の計画でのアンケート調査は、令和元年度に2,000名を対象に行っているとのことだが、以前は3年間かけて、各500人ずつというようなやり方でアンケートをしていたと思う。そのような方法であると、1年目の方は、計画ができるまでに時間が経ってしまうと思う。次回の計画では、3年間かけてアンケート調査を行うのか。
- 【 濱口統括 】 第五次の障害者計画を策定した時には、委員がおっしゃったように3年間かけて行っている。しかし、今回の計画策定については、計画策定前年度である令和元年度に2,000人の方を対象に一斉にアンケート調査を行っている。直近のニーズを把握するための方法であり、計画策定の参考にしている。
- 【 佐藤会長 】 関係部署へ情報提供としているところは、もう少し具体的に記した方がよいのではないかと考えている。例えば2番は、緑地課や公園管理などの部署か。
- 【 濱口統括 】 はい。都市整備課や公園みどり課等、関係部署に連絡しながら連携して進めていきたいと考えている。
- 【 佐藤会長 】 できたら、そのような具体的な部署名を記している方がよいと思う。関係部署というとどちらの部署かわかりにくい。24番も同じで、社協、包括と記されているが、包括の所管部署は地域包括ケア課か。
- 【 濱口統括 】 包括に関しては、長寿あんしん課が所管となっている。
- 【 佐藤会長 】 市の計画なので難しい面もあるかもしれないが、きちんと記していただき、伝えていただくようお願いしたい。
- 【 野川委員 】 パブリックコメントで、これだけたくさんのご意見が出てきたということは、市民の関心も強いと思うので、今後きちんと計画を推進していくことが大切であると思う。
- 山本委員がおっしゃったように、当時は課題と考えていなかったものが、今は課題と持っているということもあり、アンケートを経て作られた、この計画に全部反映されていると思えなかったから出たパブリックコメントなのではないか。
- 回答として、今後検討していきますという表記がどうしても多くなるの

は、仕方ないと思うが、検討していく場として全部行政だけで考えてくださいという話ではないと思う。自立支援協議会でどのようにして協議していけるのか、やはり部会のようなものがあつた方がよいと思っている。

【 佐藤会長 】 以前、部会構成の話を行っていた時期もあるがいかがか。

【 濱口統括 】 以前にも、委員からお話をいただいていることは、承知している。来年以降、部会の構成をどのようにしていくのか、行政だけではなく各関係機関と連携して検討していく場を考えていく。

【 野川委員 】 24番は、社協と出てきているので、「移動支援のニーズが増えている時」というところと、住民主体の助け合いが、社協、包括がバックアップして考えていただきたいところがイコールになるかどうかわからないが、住民同士の助け合い、支えあいの中で、こういう障害をもったニーズが解消していけないかという思いがあつて書かれていることかと思う。社協では、住民主体の助け合いとして、地区社協活動を推進していたり、「ゆめあいサービス」といって、有償ボランティアの支え合い活動をやっていたものを「ゆめあいむすび隊」に改称して、よりちょっとしたゴミ出しであったり、電球交換等、困りごとを助ける側にもあまり負荷がかからない形に変えてきているので、参考にしていきたい。

出てきたご意見があるということを社協でも知ることで、どのように運用していくことが皆さんの求めていることに近いものになるのか考えていけるかと思う。私の方からもこの件についてはフィードバックしていきたいと思っている。

【 高橋委員 】 2番の公園の件は、物理的に遊べないということもあると思うが、周囲の理解が足りなくて順番が待てないとか、途中でパニックを起こして騒いでしまったりとか、そのような子供に対して周りが引いてしまったりとか、少しみんなと一緒に馴染んでいけない、場が持たないなど、そのような空気を感じて遊べないと思ってしまうのではないか。

やはり一般の方達にもう少し理解を深めていただく機会を増やしてほしい。そのことが、この2番のような問題を軽減させるのではないかと思う。

パブリックコメントを行うにあたって、どこからヒアリング、アンケートをしたということも大変重要だと思うが、それとは別にこうした障害を持っている方達が日常にお付き合いするのは、計画を立てる時にお話する相談支援の方だと思う。相談支援の方を通して、いろいろな不安や問題、心配事をお話しているが、当事者と相談支援の間だけではなく、関わっている学校や施設、保育園や幼稚園等、関係者を集めて話し合いをする場をたくさん持つようにすることが、自立支援協議会や行政の場へつながっていくと思う。先程も部会のお話があつたが、行政に上げる

にあたって、障害児についての部会等、いろいろな部会を設置し、活発に話し合いをする場を設けていただきたい。

【 佐藤会長 】 例えば先程の相談支援の部分について、本市はコミュニティケア会議という形で重層的な障害の部分、いくつかの分野が重なれば、それらに対応してきた実績があると思うが、学校や施設は連携を図っているという認識でよろしいか。

【 濱口統括 】 はい。和光市では100%相談員が付いた中で、障害福祉サービスの提供を行っているのが現状である。その中で必要であれば、相談員の方を中心にが外部の教育機関等、状況によっては市も含めて連携を取っている。部会の在り方については、どのような構成にしていくことで、計画をより推進していけるのか、またニーズの変化に対してどのように対応していけるのか、次期計画の中でも、計画を進めながら検討していきたいと考えている。

【 佐藤会長 】 計画では、一般の方の理解がとても重要である。事務局も福祉教育の充実について学校に働きかけていくことや、従来から課題になっているあいサポートを推進する方たちの育成が始まっているため、そのような方たちが多く活躍する場を多く作っていくことも重要であると思う。是非、計画の重点項目で担当部署にも働きかけていただき、先程のご意見を反映していただきたい。

## 2 その他

今後のスケジュールについて

次回の会議について

その他 基盤整備の報告